

平成 30 年度 島根県オープンデータ研修会開催レポート

H30.10.12 島根県地域振興部情報政策課

1. 実施概要

この研修会は、平成30年10月10日（水）13:30～16:30に、松江テルサ4階 大会議室において開催し、県内市町村職員41名（7市7町1団体）の参加がありました。

今回の研修会は、これまで市町村職員の方から県に寄せられた「もっと基本的な事項を学びたい」、「担当者として実務的な内容を知りたい」等の要望を踏まえ企画したものです。

まず、島根県情報政策課 広瀬主任主事からオープンデータに関する講義があり、続いて松江市政策企画課 大谷主幹、安来市政策秘書課 金田主任からそれぞれ各市の取組みについて事例紹介がありました。

島根大学 地域包括ケア教育研究センター助教 中野邦彦氏よりオープンデータの現状と今後の展望について講義があり理解を深め、その後ワークショップに移りました。



2. ワークショップ

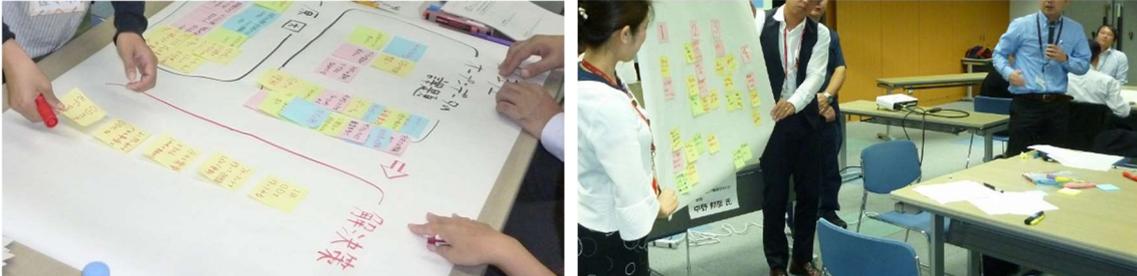
2つのグループに分けて、ワークショップを行いました。

	担当者グループ	その他グループ
対象	市町村オープンデータ担当職員のみ (16名・4テーブル)	他課の職員 (24名・5グループ)
目的	オープンデータ化を進めるに当たって想定される課題に対処するための工夫するポイントを明らかにする	オープンデータ化によって享受したいメリットについて話し合い、それに向けて公開できるデータを考える
進行	松江市 大谷主幹、安来市 金田主任	中野邦彦氏



ワークショップの最後に、全体で各テーブルから検討結果を発表しました。

発表後の質疑では、推進者グループ（オープンデータ担当）職員と情報提供者グループの職員との間で、オープンデータ化のあり方について意見交換する場面もありました。



ワークショップの検討結果（概要）

担当者グループ	その他グループ
<ul style="list-style-type: none"> ● 専任職員を配備し専門的に取り組む体制を構築してはどうか ● 庁内理解を得るため、「担当者の知識不足の解消」、「役場内の意識改革」、「ロードマップを作成し取り組む」 ● 全県統一のデータベースを準備し、市町村間の比較ができるの良いのでは ● フォーマットは担当者で準備、データ所管課には入力してもらっただけにすれば良い <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護現場の負荷軽減や、利用者の利便性向上が図れるのではないかと ● 避難場所や道路情報など、災害時のリアルタイムデータや避難情報を提供できるとよい ● 自分達がどんなデータを持っているかさえ把握できていないことが課題 ● 自治体内、また、自治体間でデータを共有できると業務効率化につながる ● 税収増につながるデータ（特産品、観光地、観光客の動機 など） ● 出しにくいデータも公開することで解決策が得られるかもしれない など

3. 参加者の声（参加者アンケートより）

参加者全員が「とても有益だった」、「概ね有益だった」と回答、研修会は好評を得ることができました。

研修の感想

	とても有益だった	概ね有益だった	あまり有益ではなかった	無回答
島根県からの説明	18 (46%)	21 (54%)	0 (0%)	0 (0%)
松江市からの説明	14 (36%)	24 (62%)	0 (0%)	1 (3%)
安来市からの説明	17 (44%)	22 (56%)	0 (0%)	0 (0%)
中野助教の講義	27 (69%)	12 (31%)	0 (0%)	0 (0%)
ワークショップ	9 (23%)	15 (38%)	0 (0%)	15 (38%)

研修を踏まえ、公開してみたい地域の特色を反映したデータ種類は？

IT エンジニアの情報、空き屋情報、そば処、児童・生徒数・学力情報、神社仏閣、有害鳥獣の情報、三江線代替バス情報、市・町営バスデータ、防災情報、年代別医療費の推移、漁獲高 など

参加者の主な感想

- 研修に参加してみて分かったことが山のようにあった。参加していない職員に周知し意識改革する必要があると感じた。(市・担当者)
- やらされ感がどうしてもあったが、今日の研修で結果的に自分たちのためになるということを理解できた気がした。(町・その他グループ)
- 担当部署が保有するデータを得るためには協力体制が不可欠であることが理解できた。理解を得るには、活用例やメリットを具体的に例示できるといいと思った。(市・その他グループ)
- 利用想定が重要だと改めて感じた。データの意外性を使った町づくりという話が印象的だった。(ほか・その他グループ)
- 県のカタログサイトの市町村データ登録に期待する。(市・担当者)
- 県内市町村の意見を聞きながら県版の推奨データセットで取り組んではどうか。(市・担当者)
- ワークショップのテンポが早い。もう少し時間を取って議論を深めたい。(市・担当者)
- 作成したデータを公開して良いか判断する窓口があると良いと思った。(町・担当者)
- フリーの分析解析ソフトがあるとよい。相談窓口を設置してはどうか。(市・その他グループ) など

4. 今後に向けて

島根県では、オープンデータに取り組む県内の自治体は2団体（H30.10.1現在）に留まっていますが、こうした研修会等を通じて、取り組みを始める自治体が、スムーズに着手できるよう支援していきます。

また、県庁も、県民や企業の方々のニーズを踏まえつつ、積極的なオープンデータの公開に取り組んでいきます。

※研修資料をオープンデータ化しています

本研修で使用した島根県、松江市、安来市の3資料については、CC-BYライセンス（出所明記で自由に二次利用可能な規約のこと）で、島根県オープンデータカタログサイト <https://shimane-opendata.jp/> に掲載しています。

以上